

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
国語	現代の国語（現代の国語）		2	普通科	1
教材・副教材	探求 現代の国語（桐原書店） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん（いいずな書店）				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること。				
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業です。 ○実社会において必要な語句の量を増やし、その構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、使うことによって語感を磨き語彙を豊かにする。 ○目的や場に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする力を培う。 ○相手や目的に応じ、自分の考えを深め、筋道を立てて適切に文章にできる力を身につける。 ○論理的な文章や実用的な文章を読解し、国語を適切に表現し、的確に捉える能力を育成する。 ○現代社会に関わる話題や問題を幅広く取り上げ、言語文化に対する関心を深め、読書に親しむ態度を身につける。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもっている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	理解（一） 評論	○文章の内容や構成，展開を的確に捉え，要旨を把握する力を養う。
	第2回	理解（二） 評論 表現（一） 書き方の基礎	○文章のなかで常用漢字を活用し，語句の量を増やし，語彙を豊かにする。 ○接続表現や比喻などの表現技法の種類や用法を理解し，正確で分かりやすい文を書けるようになることを目指す。
	第3回	理解（三） 実用文 理解（四） 複数の文章の比較	○書いた文章を批評し合う活動を行い，批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫する力を養う。 ○複数の資料や文章を読み比べて必要な情報を読み取り，複数の情報を関連づけてまとめられるようにする。
後 期	第4回	表現（二） 話し方の工夫 理解（五） 評論	○相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解し，課題に沿って適切に使えるようにする。
	第5回	理解（六） データの読み取りと文章の理解	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
国語	言語文化（言語文化）	3	普通科	1	
教材・副教材	言語文化（数研出版） 読解を大切にする 体系古典文法（数研出版） 必携 新明説漢文（尚文出版） 入試対策ベストセレクション古文単語325（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること。				
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業です。 ○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにする。 ○適切な材料を集め、自分の体験や思いが効果的に伝わるように表現の仕方を工夫する力を培う。 ○古典の世界に親しむために、特有の表現や修辞法、作品や文章の歴史的・文化的背景などについて理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：我が国特有の言語文化を通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、伝統を重んじる素養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもっている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	古文入門 漢文入門	<p>○古典の文章に慣れ、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。</p> <p>○文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えられるようにする。</p> <p>○文章の舞台となる時代背景を知り、我が国の文化と外国の文化との関係について理解をする。</p> <p>○現代詩歌の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の思想や心情を読み取る力を培う。</p> <p>○和歌の修辞技法とその効果について理解し、我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について考える。</p>
	第2回	故事成語 近現代の詩歌 随筆	
	第3回	日記 歌物語 史伝	
後 期	第4回	随筆（一） 漢詩 思想	<p>○我が国の伝統芸能や行事に関する文章を読んで、扱われている題材や内容、表現技法などについて興味を広げ、自分の考えを持つとする。</p>
	第5回	古典の詩歌 伝統と文化 軍記物語	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	地理総合（地理総合）	2	普通科	1
教材・副教材	地理総合（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院）			
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的事象の地理的な見方考え方 地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○地理に関わる諸事象に関し、世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身につける。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義・特色や相互の関係を、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係・空間的相互依存作用などに着目し、多面的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○中学校での学習事項を確認・整理しつつ、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるよう配慮する。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけでなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返し行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	地理に関わる諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係・空間的相互依存作用、地域などに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想することができる。 考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	知識技能を獲得や、思考力・判断力・表現力等を身につけることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通じて、自国および他国やその文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○振り返りシート○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○私たちが暮らす世界 ○地図や地理情報システムの役割 ○資料から読み取る現代社会 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主題学習や探究的学習をする機会を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びを得ることができるようにする。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、生徒が地域的な特色の豊かさを意識するとともに、史資料を読み解く視点を身に付ける。 ○「地理的な課題」を考察するために不可欠である、「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら扱うことにより、現代的な諸課題に対する関心を深める。 ○中学校までの社会科地理分野の知識の範囲に配慮した授業展開、そして2年次以降の「地理探究」につながるような授業展開を意識し、生徒が地理的な視野を深化させられる教育活動を行う。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○生活文化の多様性と国際理解 ○生活文化の自然環境①地形 	
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○生活文化の自然環境②気候 ○生活文化と産業① 	
後期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○生活文化と産業② ○地球環境問題 ○人口問題 ○食料問題 ○居住・都市問題 ○民族問題 	
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会の実現を目指して ○日本の自然環境の特色 ○様々な自然災害と防災 ○地域調査 	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	歴史総合（歴史総合）	2	普通科	1
教材・副教材	歴史総合 近代から現代へ（山川出版社）			
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的な事象の歴史的な見方・考え方 社会的な事象を時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○近現代の歴史における様々な側面での変化について考察することを通して、広い視野で物事を捉え判断する力を養う。その力を生かし、現代における日本及び世界の諸課題の起因とその解決策について自分なりの理解・判断のできる人格を育てる。</p> <p>○世界と其中的の日本の歴史的な歩みを概観する。日本を中心としてみた歴史と、世界の流れの中に日本を位置づけた歴史の双方の視点を重視して指導を行うため、日本史的な観点と世界史的な観点の立場に立った授業を展開する。</p> <p>○中学校での学習事項を確認・整理しつつ、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるよう配慮する。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけでなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などが深まっている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○小テスト○発問評価		○定期考査○グループディスカッション	○小テスト○提出物○授業参加の態度

年間指導計画			
期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○諸地域世界の形成 ○近代化への問い（1 交通と貿易／2 産業と人口／3 権利意識と政治参加や国民の義務／4 学校教育／5 労働と家族／6 移民） ○結びつく世界 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校社会科の学習を踏まえ、空間的な認識に広がりを持たせ、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関連付けながら資料を活用し考察する。 ○18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間・欧米諸国との関係を多面的・多角的に考察させる。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○近代ヨーロッパ・アメリカの成立 ○明治維新と日本の立憲体制 ○帝国主義の展開とアジア ○近代化と現代的な諸課題（自由・制限／開発・保全） 	<ul style="list-style-type: none"> ○18世紀後半以降の明治維新による立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ○アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較した入り、相互に関連付け、政治変革、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的に考察する。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○国際秩序の変化や大衆化への問い（1 国際関係の緊密化／2 アメリカ合衆国とソ連の台頭／3 植民地の独立／4 大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化／5 生活様式の変化） ○第一次世界大戦と大衆社会 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を用いて国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、複数の資料を比較したり関連付けて情報を読み取る中で国家間の関係性を理解する。 ○第一次世界大戦の推移やその後の世界に与えた影響などに着目し、第一次世界大戦の性格や惨禍、国際協調体制の特徴を多面的・多角的に考察し、理解する。
後期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○経済危機と第二次世界大戦 ○国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題（対立・協調／平等・格差／統合・分化） ○グローバル化への問い（1 冷戦と国際関係／2 人と資本の移動／3 高度情報通信／4 食料と人口／5 資源・エネルギーと地球環境／6 感染症／7 多様な人々の共存） 	<ul style="list-style-type: none"> ○経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化・動揺を理解する。 ○現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化について、さまざまな観点から諸資料を通して考察する。 ○冷戦下の国際関係と各国の取り組みに関する諸資料をもとに問いを立てて学習の見通しをもつ。
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦と世界経済 ○グローバル化する世界 ○現代の課題 ○現代的な諸課題の形成と展望 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などについて考察する。その中で、特に我が国の動向と関連づけて理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学 I（数学 I）	3	普通科	1
教材・副教材	新編 数学 I（数研出版） 3TRIAL 数学 I（数研出版）			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <p>○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。</p> <p>○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。</p> <p>○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。</p> <p>○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。</p> <p>■未来を拓く 8 つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。</p> <p>○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く 8 つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<p>○数と式、集合と命題、2 次関数、図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>○命題の条件や結論に着目し数や式を目的に応じて変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を表現し考察する力、データの散らばりや変量間の関係などに着目し問題解決の過程や結果を考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。</p>
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○課題</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式	○式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして、既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 ○実数が四則演算に関して閉じていることや直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、無理数の四則演算ができるようにする。 ○不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。
	第2回	第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・裏・対偶 4. 命題と証明 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定	○集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 ○2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。 ○2次関数のグラフを通して、関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 ○2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。
	第3回	第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	○三角比の意味やその基本的な性質について理解し三角比の相互関係などを理解できるようにする。日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 ○図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。
後期	第4回	第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間関係 6. 仮説検定の考え方	○データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行いデータの傾向を把握して事象の特徴を表現する力を養う。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学Ⅱ（数学Ⅱ）		1	普通科	1
教材・副教材	新編 数学Ⅱ（数研出版） 3TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）				
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力		情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
後 期	第5回	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	○多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。 ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 ○方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 ○因数定理を理解し、因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	学科	年次
数学	数学 A (数学 A)	2	普通科	1
教材・副教材	新編 数学 A (数研出版) 3TRIAL 数学 A (数研出版)			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○場合の数と確率、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	○不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間関係などに着目し図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合と要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	○場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第2回	第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率 9. 期待値	○確率の基本や基本的な法則についての理解を深めそれらを事象の考察に活用できるようにする。
	第3回	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形	○平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
後期	第4回	5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	○空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第3章 数学と人間の活動 1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 7. 記数法 8. 座標の考え方 9. ゲーム・パズルの中の数学	○身近な人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を数学を用いて考察できるような力を培う。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	物理基礎（物理基礎a）		2	普通科	1
教材・副教材	高等学校 物理基礎（第一学習社），ステップアップノート 物理基礎 新訂版（啓林館）				
科目の目標	<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方 観察・実験を通して，自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較や関係付けなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>※ この授業は，通期，一斉授業です。</p> <p>第Ⅰ章 運動とエネルギー ○日常で起こる現象について観察，実験等を行い，複雑で全く異なって見える種々の運動に共通した法則性があることを学習するとともに，実験を行う上での基礎的な技能を身につける。</p> <p>第Ⅱ章 熱 ○熱に関する現象について観察，実験等を行い，熱の実体とは何かを学習する。また，グループでの協議，発表を通じて，熱の利用例について具体的に考察する。</p> <p>第Ⅲ章 波動 ○波動に関する現象について観察，実験等を行い，様々な波に共通する基本的な性質を学習する。また，音波に着目し，波としての音の性質について考える。</p> <p>第Ⅳ章 電気 ○電気に関する現象について観察，実験等を行い，電気に関する基本的な物理量と電気と密接に関わる磁気の性質を学ぶ。また，家庭に送られる電気がどのようにつくられているのか，グループでの協議や発表を通じてその仕組みを学習する。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u> ○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○斜面上をくだる台車の運動や，台車を一定の力で引く実験などを行い，様々な運動の法則性を理解することができる。 ○運動を表す式や法則を用いて，問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し，創意工夫を凝らし実験を行うことができる。	○静止している物体や，運動している物体のようすを図や矢印で表し，それらから式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べるができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引きおこされるかを問い，探求していく態度を育むことができる。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実験	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第I章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動	①速さと速度のそれぞれの特徴を学習し、直線上の運動における速度の合成や相対速度を理解する。 ②物体が直線上を運動する場合の加速度について理解し、一定の加速度で運動するようすを式やグラフで表す。 ③物体が落下するときの運動の特徴について学習し、運動のようすを式やグラフで表す。
	第2回	第I章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則	①物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 ②力の合成、分解を学習し、物体にはたらく力のつりあいを理解する。 ③物体を一定の力で引く実験などを行い、運動の3法則を理解する。 ④物体に摩擦力や浮力がはたらくときの運動を理解する。
	第3回	第I章 運動とエネルギー 第2節 力の運動と法則 第3節 仕事と力学的エネルギー	①物体に摩擦力や浮力がはたらくときの運動を理解する。 ②物理における仕事の意味を学習し、仕事の原理、仕事率について理解する。 ③運動エネルギーや位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 ④力学的エネルギー保存の法則についての実験などを行い、仕事と関連づけて理解する。
後 期	第4回	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー	①熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する。 ②熱に関する実験などを行い、熱容量、比熱、熱量の保存などを理解する。
	第5回	第III章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第IV章 電気 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用	①ばねやひもなどを用いて波が伝わるようすを観察し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなど、波の基本的な特徴を理解する。 ②波動実験器などを用いて、波の重ね合わせや独立性、定常波、波の反射について理解する。 ③気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連づけて理解する。 ④電磁波の特徴を学び、電磁波が現代の社会生活に広く利用されていることを理解する。 ⑤放射線の種類と性質、放射性物質の基本的な性質、および原子力の利用とその課題について理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	生物基礎（生物基礎）		2	普通科	1
教材・副教材	高等学校 生物基礎（数研出版），スクエア最新図説生物（第一学習社） リードα生物基礎（数研出版）				
科目の目標	<p>生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>○観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う</p> <p>※理科の見方考え方 自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>この授業は，通期，一斉授業です。</p> <p>○生物の特徴について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ，観察，実験を通して探究し，多様な生物な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。</p> <p>○ヒトの体の調節について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ観察，実験を通して探究し，神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現すること。</p> <p>○生物の多様性と生態系について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ観察，実験を通して探究し，生態系における，生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 高い志で挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的に探究に必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</p> <p>○生物に関する概念や法則を理解し，問題を解くことができる。</p> <p>○実験器具の使い方や方法を理解し，工夫を凝らし実験を行うことができる。</p>	<p>○生物や生物現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，式や法則を見出すことができる。</p> <p>○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べるができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。</p>	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引きおこされるかを問い，探求していく態度が身についている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○実験書</p>	<p>○定期考査</p> <p>○実験書</p>	<p>○授業にのぞむ姿勢</p> <p>○授業ノート</p> <p>○課題</p>		

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成	生物の多様性と共通性について理解し、その共通性が共通の起源をもつことに由来することを学習する。
	第2回	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	遺伝子の本体である DNA について、構造およびそのはたらきについて理解し、細胞に正確に複製されて受け継がれていくことを学習する。
	第3回	第2章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ	多細胞生物において、体内環境がいかにして一定に保たれているかを理解する。さらに、そのしくみとして、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系・免疫を学習する。
後 期	第4回	第3章 ヒトの体内環境の維持 第3節 免疫のはたらき	
		第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム	地球上に見られるさまざまな環境によってどのようなバイオームが分布しているかを学習する。また、人類が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げ自然環境を保全することが大切であることを理解する。
	第5回	第5章 生物の多様性と生態系 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
保健体育	体育（体育）	3	普通科	1
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店）			
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたって運動、スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。 ○課題解決のために思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。 ○仲間と競争や協働の経験を通して、互いに認め合い、高め合うことができる。 <p>※体育の見方・考え方とは、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「体づくり運動」では、自己の体力や生活に応じて、体の調子をを整え体力の向上を図る。 ○「器械運動」「陸上競技」では、各種の技の習得や向上を目指し、自ら考え、工夫できるようにする。 ○「球技」では、技能の段階に応じた作戦を立て、勝敗を競う過程に楽しさを味わうことができるようにする。また、グループの中で公正・協力・責任などの態度を育てる。 <p>履修上の注意 本校規定の体操服（柔道着）、体育館シューズ、グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を活用する力：chromebookやiPadなどのICTツール等を活用し、スキルアップの方法や自己の運動課題を解決することができる。 ○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話が生まれ、協働した活動を行うことができる。 ○志高く挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。 ○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	<p>情報を活用する力</p> <p>論理的・批判的に思考する力</p> <p>自分の考えを表現する力</p>	<p>対話し協働する力</p> <p>志高く挑戦する力</p> <p>自律しやり抜く力</p>	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール、試合の進め方等を理解し、実践することができる。また、各種目に必要な技能や体力を身につけ、努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し、話し合い活動へ積極的に関わったり、課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また、自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント ○相互評価 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業観察 ○まとめプリント（記述） ○相互評価 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	<p>○2年次以降の選択制授業に向けて様々な競技の特性に触れ技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。</p> <p>○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。</p> <p>○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。</p> <p>○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。</p>
		ソフトボール（男子） バレーボール（女子）	
		体育理論（男女）	
		ダンス（男女）	
		陸上競技（男子） バドミントン（女子）	
後 期		バスケットボール（男子） 器械運動（女子）	
		器械運動（男子） 陸上競技（女子）	
		サッカー（男子） バスケットボール（女子）	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
保健体育	保健（保健）	1	普通科	1
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店） 図説現代高等保健（大修館書店）			
科目の目標	<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>○様々な疾病や怪我などの特徴や予防方法の知識を身につけるとともに、日常生活の中に実践できる技能を身につけることができる。</p> <p>○健康課題の発見や課題解決に向けて思考、判断するとともに自らの考えを仲間に伝え、共有することができる。</p> <p>○生涯を通じて、自他の健康の保持増進に興味、関心を持ち、心身ともに健康的な人生を送ろうとする態度を養うことができる。</p> <p>※保健の見方・考え方とは、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○「現代社会と健康」では、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。</p> <p>また、新たに取り上げられることとなった「がん」や「精神疾患」など現代における健康課題とその予防について学ぶことで正しい知識を身につけ、これらの健康課題を解決していくために必要な実践力を養うようにする。</p> <p>○「安全な社会生活」では、交通安全や応急手当の知識はもちろんのこと、特に心肺蘇生法の手順や AED を用いた心肺蘇生法の技能についても実践できるようにする。</p> <p>具体的な単元：「生活習慣病の予防と回復」「がんの原因と予防」「精神疾患の特徴」「応急手当の意義とその基本」など</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：教科書だけにとらわれず、目の前で起こっている健康課題も学び、社会に出た際に活用できる知識を身に付ける。</p> <p>○情報を活用する力：グループでの調べ学習では、たくさんの情報から選択していく力が身につく。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	「現代社会と健康」、「安全な社会生活」の単元を通して基礎的な知識を習得し、AED や応急手当などの技能を身につけ、実践できるようにする。	様々な疾病や安全に生活していくための予防法を思考したり、健康に生活を送るための正しい選択ができる判断力を身につけたりしようとする。また、考えたことをグループの仲間に向けて伝えようとする。	自分の健康や安全について興味関心を持ち、積極的に考えることができる。また、他者の意見や考えを尊重し、多面的に物事を考えようとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○授業ノート・プリント ○小テスト ○授業観察 など	○授業ノート・プリント ○授業観察 ○課題学習における制作物や提出物 など	○提出物 ○授業ノート・プリント ○授業観察 など	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第3回	<p>○「現代社会と健康」</p> <p>健康の考え方と成り立ち</p> <p>私たちの健康のすがた</p> <p>生活習慣病の予防と回復</p> <p>がんの原因と予防</p> <p>がんの治療と回復</p> <p>運動と健康</p> <p>食事と健康</p> <p>休養睡眠と健康</p> <p>喫煙と健康</p> <p>飲酒と健康</p> <p>薬物乱用と健康</p> <p>精神疾患の特徴</p> <p>精神疾患の予防</p> <p>精神疾患からの回復</p>	<p>○各単元の基礎的な知識を理解し、自分の日常生活に生かそうとする力を養う。</p> <p>○保健は自分の日常生活に直結する学問であることを意識し、健康で安全な生活を送っていくための方策を思考し、グループの仲間と共有する力を身につける。</p> <p>○授業中は様々な健康課題について、グループ内で考え、仲間と積極的に課題解決に向けて取り組む姿勢が求められる。</p> <p>○できるだけ身近な話題に触れ、興味関心を高めようとする。</p>
後 期	第5回	<p>現代の感染症</p> <p>感染症の予防</p> <p>性感染症エイズとその予防</p> <p>健康に関する意思決定行動選択</p> <p>健康に関する環境づくり</p> <p>○「安全な社会生活」</p> <p>事故の現状と発生要因</p> <p>安全な社会の形成</p> <p>交通における安全</p> <p>応急手当の意義とその基本</p> <p>日常的な応急手当</p> <p>心肺蘇生法</p>	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
芸術	音楽Ⅰ（音楽Ⅰ）		2	普通科	1
教材・副教材	MOUSAⅠ（教育芸術社）				
科目の目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>○主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p> <p>※音楽的な見方・考え方 感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○歌唱（斉唱、2部合唱、3部合唱）、器楽（ギター、箏）、創作において、表現に関わる知識や技能を得たり、活かしたりしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫できるようにする。</p> <p>○鑑賞に関わる知識を得たり活かしたりしながら、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わりなどについて理解を深める。 創意工夫などを活かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、関わりについて考え、どのように表現するか意図をもっている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○振り返りシート ○小テスト	○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート		

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
芸術	美術 I (美術 I)		2	普通科	1
教材・副教材	美術 1 (光村図書)				
科目の目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> <p>※造形的な見方・感じ方 感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○アイディアスケッチ等を活用し、自分の考えや表現したいイメージをより深く追求したりしていく。</p> <p>○教科書に掲載されている作品を鑑賞し、その特徴や表現方法を学びながら、創造活動の幅を広げる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見ると表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じてながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方について理解を深めている。 教材や用具の特性を生かして、自分の意図に応じて表現方法を工夫し、創造活動を行うことができる。	アイディアスケッチで自分の思いや考えをまとめることができる。 授業を振り返り、感じたことや学んだことをまとめることができる。	他者の考え方を尊重しながら自分の意見や考えを持ち、作品に反映しようとしている。 感じたことや考えていることを自分の言葉でまとめている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○提出作品	○授業態度の観察 ○ワークシート ○振り返りシート ○アイディアスケッチ	○授業態度の観察 ○ワークシート ○振り返りシート ○アイディアスケッチ		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		○ガイダンス ○人物クロッキー ○絵画（油彩） 「靴を描く」 ○デザイン 「自分人形イラスト」	○美術 I についての概要を知る。 ○絵を描くための基本的なものの見方や描き方を身につける。 ○油彩画の効果的な表現方法を知る。 ○モチーフの固有色だけでなく、自分の感じた色を大切に て表現する。 ○ポスターカラーの基礎的な表現方法を知る。 ○色相対比・明度対比を効果的に利用して表現する。
		○絵画（透明水彩画法） 「花を描く」 ○絵画・デザイン（コラージュ） 「コラージュで描くカレンダー制作」	○透明水彩の基本的な表現方法を知る。 ○にじみ・ぼかしの技法を効果的に利用して表現する。 ○素材や用具の特性を理解し制作する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
芸術	書道 I（書道 I）	2	普通科	1
教材・副教材	書 I（教育図書）			
科目の目標	<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>○書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけられるようにする。</p> <p>○書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えたり、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>○主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> <p>※書に関する見方・考え方</p> <p>書の特質に即して物事をとらえる視点や考え方で、感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○書写から書道への内容に移行していく中で、ただ整った文字を書くだけではなく、様々な美しさがあることを学ぶ。</p> <p>○漢字の五書体および仮名の成立の歴史を知り、楷書・行書・仮名の書の用筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じる。</p> <p>○篆刻により自身の名印を作成する。</p> <p>○漢字仮名交じり書の学習を通して様々な書にふれ、一元的なものではない美に気づいていく。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○作品の評価 ○小テスト	○授業態度の観察 ○作品の評価 ○鑑賞課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題の点検	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
外国語	英語コミュニケーションⅠ（英語コミュニケーションⅠ）		4	普通科	1
教材・副教材	LANDMARK English Communication I（啓林館） LANDMARK English Communication I ワークブック（啓林館）				
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる <p>※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業ではペアワーク・グループワークなどに積極的に取り組むとともに、スピーチなどでは他の意見を受容し、自らも積極的に考えを表現します。 ○授業と同様に家庭学習も大切に、学習したことを振り返り、読解問題などに自主的に取り組みます。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れています。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などで、より上位の級の合格を目指す。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○小テスト ○パフォーマンステスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○提出物 ○小テスト ○授業態度の観察		

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Preparatory Lesson 1~4 Lesson 1 Unlock Your Potential (不定詞・動名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を理解し，英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に，的確かつ簡潔に答える能力を高め，さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらず，ペア(グループ)ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が求められる。 ○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ次回必ず答えられるように徹底的に復習する。
	第2回	Lesson 2 Curry Travels around the World (現在完了形/現在完了進行形・過去完了形/過去完了進行形) Lesson 3 The Moon and Our Culture (分詞の後置修飾・関係代名詞) R1 Little Prince	
	第3回	Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima (前置詞+関係代名詞・関係副詞) Lesson 5 Cacao Revolution (形式主語構文・知覚動詞) Lesson 6 Communication without Words (seemの用法・SV+疑問詞節/SVO+疑問詞節)	
後 期	第4回	Lesson 7 Thank you, Bailey! (SVO+to不定詞・使役動詞) Lesson 8 The Secret Life of a Gamer (分詞構文)	
	第5回	Lesson 9 Doctors Alone Cannot Do It (仮定法過去・関係代名詞what) Lesson 10 Friendship over Time (関係代名詞の非限定用法・仮定法過去完了) R2 Glowing Creatures	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
外国語	論理・表現 I（論理・表現 I）	2	普通科	1
教材・副教材	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I（開隆堂） APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I WORKBOOK（開隆堂）			
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれら結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやりとりができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書くことができる。 <p>※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、習熟度別授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○設定されたテーマ・課題に対して、ペアワーク・グループワークを通して質問や意見交換を行うことで、内容理解を深化させ、聞き手や目的を意識して簡潔に話したり書いたりする活動に積極的に取り組みます。 ○教科書の本文を利用して、「書く」「話す（やりとり）」「話す（発表）」という3領域を育成し、発信能力を培います。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れています。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などで、より上位の級の合格を目指す。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	各トピックの内容や各文法事項の用法を理解している。 各文法項目をタスクの中で適切に使う技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で論理的に詳しく話したり書いたりしている。	学習した表現を活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。 自分の発話や書いたりしたものを振り返ろうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○小テスト ○パフォーマンステスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Pre-Lesson ①いろいろな品詞, ②文のなりたち, ③文の要素と文構造, ④文の種類, ⑤否定文の作り方, ⑥疑問文の作り方 Lesson 1 My Hero Lesson 2 Plans for the Weekend Paragraph Writing 1	<p>○英語を理解し, 英語で表現する態度や能力を養う。</p> <p>○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に, 的確かつ簡潔に答える能力を高め, さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。</p> <p>○授業中は英語力にかかわらずペア(グループ)ワークで英語を用いて意欲的かつ積極的に表現しようとする姿勢が求められる。</p> <p>○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ次回必ず表現できるように徹底的に復習する。</p>
	第2回	Lesson 3 Tips for Foreign Tourists Lesson 4 My Own Experiences Presentation 1 Lesson 5 Popular Foods in the World	
	第3回	Lesson 6 Guinness World Records Lesson 7 The Best-before Dates Debate 1 Lesson 8 Ready for Disasters	
後期	第4回	Lesson 9 Introducing Japanese Culture Paragraph Writing 2 Lesson 10 What Did You See? Lesson 11 Your Own Special Products Presentation 2	
	第5回	Lesson 12 A Sightseeing Spot to Recommend Lesson 13 I Wish I Could Lesson 14 What Is "Upcycling"? Debate 2	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
情報	情報Ⅰ（情報Ⅰ）		2	普通科	1
教材・副教材	情報Ⅰ Step Forward！（東京書籍）				
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 ○様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 ○情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。 <p>※情報に関する科学的な見方・考え方 情報を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。 情報社会における問題の発見・解決するために必要な能力を身に付ける。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：情報に関する用語などの基礎知識を学び、日々変化する情報化社会を生き抜くために必要になる情報リテラシーを育成する。 ○情報を活用する力：様々なデータを活用し分析する活動を通して、問題の明確化、情報の収集・整理・分析する技術を育成する。 ○論理的・批判的に思考する力：ある事柄について、1つの情報源だけでなく複数の情報と照らし合わせることで物事を多面的に判断できる力を育成する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けている。情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けている。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見出している。問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。	情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとしたり、情報セキュリティを確保しようとしていたりして、情報社会に主体的に参画しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習 ○授業での活動 ○提出物 		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	第1章 情報社会 第2章 情報デザイン	<p>○情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を通して、問題を発見・解決する方法を身に付ける。</p> <p>○情報技術が人や社会に果たす役割と影響や情報モラルなどについて理解し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し望ましい情報社会の構築に寄与する力を養う。</p> <p>○目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するようにし、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身に付ける。</p>
	第3回	第3章 デジタル	<p>○情報のデジタル化に関して、必要となる知識や仕組みを科学的に理解する。</p> <p>○コンピュータの特性を踏まえて活用するために、コンピュータの能力を適切に判断する力、精度とデータ容量のトレードオフの関係などを踏まえ、コンピュータを適切に活用する力を養う。</p>
後期	第4回	第4章 ネットワーク 第5章 問題解決	<p>○情報通信ネットワークや情報システムにより、提供されるサービスを活用する活動を通して、情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解する。</p> <p>○データを蓄積・管理・提供する方法、データを収集・整理・分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付ける。</p> <p>○問題の発見・解決に活用するために、必要なデータの収集について、選択・判断する力、それに応じて適切なデータの整理や変換の方法を判断する力、分析の目的に応じた方法を選択・処理する力、その結果について多面的な可視化を行うことにより、データに含まれる傾向を見いだす力を養う。</p> <p>※データの活用については、数学科、情報科、総合的な探究の時間で連携し、学習時期や内容についてカリキュラムマネジメントを行う。</p>
	第5回	第6章 プログラミング	<p>○コンピュータの仕組みや特徴を理解し、目的に応じたアルゴリズムを考え、モデル化やシミュレーションを適切な方法で表現し、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考え、思考力・判断力・表現力等を身に付ける。</p>

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。